

## 熊本大学学術リポジトリ

### Kumamoto University Repository System

Title	無邪氣
Author(s)	朋田, 泰典
Citation	龍南, 240: 45-46
Issue date	1938-03-04
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2298/7469">http://hdl.handle.net/2298/7469</a>
Right	

# 無邪氣

文三 甲三 朋 田 泰 典

あの子は餘りに従順しい  
氣紛れの風に吹かれてゐる  
可憐な花の一輪を  
いづくしみの心で庇ひもしない  
不躰な要求に躊躇もなく  
眞紅に咲いた花を捧げた  
(あゝその色さへも見分けしないで)  
私はその花を抱いて泣いてゐる  
若い日の逆上に鞭打ちながら  
……………でも私は知つてゐる  
世慣れぬものが世慣れたものに  
わけもなく買はれていくのを  
只呪はしいのはそれなんだ  
ほんきに私はごうしよう  
永劫の愛に歎くさいふ魂を  
青い海底に沈めたなら

深海魚が来て食ふだらう

私は今度は他の鞭を

こつそり揚げて泣いてゐる

## 何が残る？

空気を嗅ぎ廻る偽瞞ホトの行跡には時ならぬ嵐が荒び

古色蒼然たる瓶の腐敗した水は毒氣ある息を吐き

神が自らの湖に浮ぶ舟で夢を紛失するとき

享樂と糧の爲の亂騒の戦慄の青白さ

そこ愛想よき善さもは刻々の區別けいべつに戸惑ひ

軸廻の足の偉大なる使分けに驚愕し

身許不明の渾沌を自矢の酒を酌む

純粹なる情熱への代償は

も早悪辣なる痛罵である

昨日の智は今日その無一文に哀哭す

チエツ絢爛たる財布の中の淺間しき殘滓よ

汝は古新聞紙を購ふの價値もない

だが待てよ武器のない争闘はまだあるだらう